

Coalport CHINA MUSEUM

コールポート・チャイナ博物館

コールポート・チャイナ博物館は、1796年から1926年まで高品質な陶器を製造していたコールポート・チャイナ社の跡地に設立されました。コールポート・チャイナ社の建物と歴史の保存を目的に1976年にオープンした博物館です。

陶器の製造は、コールポート社の創業者であるジョン・ローズの尽力によって発展しました。セヴァーン川の対岸にあるカーフレイ・ポーセリン工場で見習い工として働き始めたジョンは、1793年に同社を退社し、1796年にコールポート湾の近くに自分の陶器工場を設立しました。その後工場は大成功を収め、1799年には以前の勤務先であるカーフレイ社を買収しました。



1820年代には、陶器の品質を改善し、美しい装飾で有名になりました。ビルテック、アストン、およびケルシャルなどの熟練絵付け師のほか、エナメル細工師、メッキ師などたくさん職人が雇われ、陶器の製作に注力しました。そしてジョンが亡くなる1841年までに、工場はイギリスで当時最高峰の収益と芸術を備えた陶器会社へと成長していたのです。

ジョンの死後、同社はウィリアム・ピューとウィリアム・フレデリック・ローズが受け継ぎ、さらに成功を収めました。1851年から1872年に各地で開催された万国博覧会では、コールポート社の高い技術が評価され、さらなる技術改善が行われました。花の絵柄のウィリアム・クック、鳥の絵柄のジョン・ランドル、そして天使の絵柄のロバート・アブラハムなど、さまざまな絵柄を得意とする優れた芸術家により、19世紀半ばには、同社の絵付け技術が頂点を極めました。このような技術は、フランスのセーヴルにある陶器工場にも影響を与え、セーヴル独自の鮮やかな色が開発されました。「バリー・ローズ」というピンク色は、1851年の大博覧会の展示のためにコールポート社が作り上げました。

この後の70年間、コールポート社は興隆と低迷を繰り返しますが、1889年にチャールズ・ブラフが経営を引き継ぐと再び活気を取り戻します。

その翌年の **1926** 年、コールドン社の陶器製造停止を受けて、同社はストローク・オン・トレントに譲渡されました。その後も何度かオーナーが変わりましたが、**1967** 年にウエッジウッド・グループに買収され、現在もコールドン社の製品は高い評価を受けています。

コールドン社の工場は、**20** 世紀半ばまで工業利用されていましたが、**1970** 年代には廃墟となりました。しかしその歴史的価値が評価され、**1976** 年にアイアンブリッジ峡谷博物館の一部として公開されました。

ボトル・オープン

入口をくぐるとすぐに、煙突の突き立つ **2** 台のボトル・オープン (ボトルの形をした釜) が目に入ります。この釜は、陶器釜として実際に使用されていたものです。スタフォードシャー・ポッタリーズや多くの陶器工場に普及していましたが、現存しているボトル・オープンはほとんどありません。

展示品の紹介

インドの木



「インドの木」の柄は、コールドン社の製品に頻繁に見られる有名な絵柄です。この柄の陶器は、**19** 世紀後半から **20** 世紀にかけて数多く生産され、現在でも人気があります。この絵柄は **1801** 年に初めて登場し **1820** 年代に普及しました。柄の由来は明らかではありませんが、「シュロップシャーの軽装歩兵団」の兵士が持っていたシルクの小物の柄だったと言われています。

ここには、バットウィング柄やブロズリー・グリーン・ドラゴン柄など、高い人気を得ていたコールドン社の絵柄が展示されています。

バットウィング柄は、陶器に描かれた明るいパネルがコウモリの翼に似ていることから、この名が付けました。**1896** 年に初めて登場して以来、コールドン社のデザインの中で最も人気の高い絵柄の一つとなっています。

ブロズリー・グリーン・ドラゴン柄も、長年に渡って愛されています。**1805** 年に初めて制作されました。この名称は、コールドンから **3** マイル (約 **4.8 km**) ほど離れたブロズリーという小さな町の名前が由来となっています。

ノーサンバーランド・ベース (花器)

これはコールポート社の陶器の中で最大の作品で、1862年のロンドン万国博覧会に出展されました。鮮やかな紺碧色が特徴で、ロバート・アブラハムとウィリアム・クックにより素晴らしい絵柄が描かれています。

カーフレイ・ギャラリー

キャベツの葉型の水差し

この博物館では、コールポート社の陶器のほか、カーフレイ社製の国宝級の陶器も展示しています。コールポート・チャイナ・ワークスの前身であるカーフレイ・ポーセリン工場は、18世紀後半に操業していた陶器工場で、セヴァーン川の対岸にありました。同工場の最も有名な製品は、とてもユニークな形をした水差しです。この水差しには、アイアンブリッジの景色が描かれているため、1779年の橋の完成を記念して制作されたものと考えられています。

オレンジ公のプレート

この素晴らしいプレートに描かれている紋章は、ドイツのオレンジ公、ウィレム V 世総督のもので、このプレートは、カーフレイ・ポーセリン工場で作りましたが、その他の多くの作品同様、製造時期や絵付けが行われた場所などは、はっきりしません。1796年8月にアイアンブリッジ峡谷を訪れたオレンジ公への記念品として制作され、同工場で絵付けされたのではないかと考えられています。

